

平成28年度長崎市提案型協働事業 1次審査会 会議録

- ◆ **日時**：平成28年8月27日（土）14：30～17：00
- ◆ **場所**：アマランス 研修室1・2
- ◆ **出席者**

審査会会長	山口 純哉	（長崎大学経済学部 准教授）
委員	今村 晃章	（NPO 法人ミディエイド 代表理事）
	古賀 弥生	（活水女子大学 教授）
	高野 幸恵	（トムテのおもちゃ箱 代表）
	松本 敏子	（（有）松環舎 取締役）

事務局 市民協働推進室

◆ 1次審査会の次第

- （1） アスレティックトレーナー長崎県協議会
- （2） 「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員会

委員長講評

1 公開プレゼン1次審査会

◆ 質疑応答

(1) アスレティックトレーナー長崎県協議会

【委員】

子どもにケガをしたときにどうするかということを知ってもらうことも大切かと思うが、ケガの発生件数等を見ると、そもそも指導者や監督の知識不足等があるからケガの発生が高いということも考えられるので、指導者に対してアプローチが必要なのではないかと感じたが、それについてはどう考えているかを教えていただきたい。

また、予算書でチラシを7000部計上しているが、モデル校を選定して実施していくのであれば、このチラシは不要ではないかと思うがどうか。

【アスレティックトレーナー長崎県協議会】

指導者に理解してもらうことも大切なので、子どもや保護者だけでなく、指導者にも入ってもらうようにしていきたいと思う。

チラシの件については、ご指摘のとおりと思うので、今後調整していきたいと思う。

【委員】

今回の事業の目的は、過度なスポーツによって負荷がかかっている子どもたちのスポーツ環境を改善することなのか、それともスポーツをしていない子どもたちに対して10歳前後の時期がとても大事だということなどの普及啓発活動を行うことなのか、特にどちらを重要と考えているかを教えていただきたい。

【アスレティックトレーナー長崎県協議会】

理想としては、全ての子どもたちに成長期の身体の特徴などについての理解が浸透していくことだと思うが、こういったことを一般の子を対象にしてもなかなか集まらないので、行政と協働して、まずはモデルケースとして学校の中で指導をしていき、そういったことが浸透していくといいのではないかと考えている。

【委員】

問題点、課題については理解できた。その課題に対して、提案された事業がどこまで現場のニーズに合っているのかと少し疑問に思った。中学校では「こどもからだ相談室」を設置するとなっているが、実際に中学生が相談室来るのかという疑問がある。今回の提案事業を考える時点で、小学校や中学校の現場の状況、実際に子どもたちや保護者のニーズについてはどこまで把握しているか。

【アスレティックトレーナー長崎県協議会】

事業提案にあたっては、別の担当者がメインで関わっていて、本日は私が代役という形でプレゼンしているため、詳しいことについては私自身が把握できていないというのが正直なところです。

【委員】

この件について、担当課で把握していることなどがあれば教えていただきたい。

【健康教育課】

今回の提案にあたり、事前に団体の方と話をさせていただいており、現場のニーズについては、団体が県の事業やその他の活動に取り組んでいく中で、色々な話をする機会があると聞いている。

学校は少し閉鎖的なイメージがあるが、例えば、子どもの身体に関することについては養護教諭がいますし、学校医もいますし、場合によっては病院を受診するということもあると思う。質問があった点について、子どもの時期の身体の発育状況やけがの予防などの重要性については指導されていて、保護者、教諭、指導者もそういったことを認識しながらやっていくという意識の向上を図っていかなければいけないと思っている。

質問の内容と少し違うかもしれないが、子どもの学力同様に、体力についても握力や上体起こし、長座体前屈、持久走など「全国体力運動能力調査」というものが行われており、H27年度の調査の中で、特に全国平均と比較して低かった項目として特に柔軟性の項目がある。我々としては特に体力の向上につながるものなのかなということで、色々な話をさせていただいている。「体力の向上」については、長崎市の教育施策のひとつでもあるので、それにつながるものであればなと思っている。

成果をどのように考えるのかも重要ではないかと思う。例えば、モデル校を選定して、その学校の体力的な数値が上がるなど、成果をどういった形で考えているのかというのは気になっているところです。

【委員】

先ほど「運動部の子と運動部でない子、どちらか？」というような話も出たが、小学生か中学生かということを考えた場合、小学生と中学生では指導方法や伝え方、伝える内容も当然違ってくるのではないかと思う。これまでもその対象に合った内容でやってきているとは思いますが、どちらが優先順位として高いと考えているか、団体としての考えでも、個人としての考えでも構わないので教えていただきたい。

【アスレティックトレーナー長崎県協議会】

個人的には、小学生がゴールデンエイジの時期であるということ、また、小学校できちんと教えることができれば中学校でも活かせると思うので、どちらかといえば小学生の方だと考えている。

～ 質疑終了 ～

(2)「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員会

【委員】

マナーアップが大事という話があって、今回の事業には「大人の便教時間」というイベントも盛り込んであったが、例えば子どもへの働きかけというか、大人を変えるより子どもを変えるほうが効果的であったりするので、そういったことも必要ではないかと思うが、そういったことは考えていないのか。

【「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員会】

団体のfacebookやホームページを見ていただくと詳しいことが分かると思うが、子どもたちのための「便育」をこれまで3回実施している。

【委員】

その中で、マナーアップについてもやっているのか。

【「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員会】

今、皆さんに配布している「トイレタイムス」を見ていただければ、便育の状況についても掲載している。食育があるのであれば、便育があることは当たり前のことだと思うが、初めて便育をしたときに「便育？汚いのでは？」と言われた。しかし、便育はとても大事なことだと思う。

【委員】

日頃の活動で大きく実績をあげていることは分かったが、あらためて協働事業で行うことの意義についてお聞きしたい。今回の事業としてポータルサイトの構築やイベントの開催があるが、これを行政と協働でやることで今までできなかったことができる部分というのがあるのか。

【「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員会】

5年前に団体を立ち上げ、これまで、まちなか事業推進室と一緒に取り組んできた。例えば、トイレの不具合があったときや設備をこうした方がいいというようなことがあったときに、まちなか事業推進室から担当課にバランスよく伝わり、会議のときに出てきてくれるようになり、問題も解決できるようになった。

私が今回の事業を考えたときに、みどりの課が担当と言われるかもしれないと思った。それは「トイレ＝便器」というイメージがあるからだが、私たちは「トイレ＝まちづくり」として考えている。そのため、この5年間まちなか事業推進室と一緒にやってきた。この5年間の中で、「まちかどトイレ」の設置も進めたが、「貸すと汚される」ということで、結局2つほど途中で休んでしまったところがある。「トイレだけでもどうぞ」としていると、何も言わずに入ってきて、何も言わないで出でいく人がいる。「ひと声かけてね」という気持ちがあるので、まちかどトイレのルールを表に貼るようにした。そうすることによって帰りに「ありがとう」と言われるようになるなど、だんだん変わってきた。しかし、ある駐車場のトイレに「こんなことをするなら、もうここを閉じたいです」と書いてあった。ペットボトルをタンクの中に入れる、これは最近よくある

こと。また、トイレトペーパーを盗んでいくということもよくあることで、それをされるぐらいだったら、もう貸しませんというような少し強烈な言葉を書いてあったりもする。浜の町のあるお店のトイレにも「これ以上汚く使われると、もうこのトイレは閉じます」と大きく書かれている。そういうことを見るたびに本当にせつなく思う。一生懸命こういう活動をしているが、なかなか広がっていかない。それをどういうふうにしていったらいいのかを考えたときに、やはりこのようなトイレのポータルサイトを作って、みんなと共有すること大切だと思った。それで本当に解決するのかというと、それはやってみないと分からない。でも、私はこの5年間で少しずつではあるが解決してきた。だから決してあきらめてはいません。

【委員】

さきほど委員が言われたように、この事業をされるときに行政と組むことで自分たちだけではできなかったことができるようになるというようなことがあれば、教えていただきたい。

【「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員会】

行政と一緒にやっていることで、信頼感が大きくなる。団体単独ではなく、行政と組んだ団体ということが信頼感をアップさせていると思う。

【委員】

トイレの再調査をされるということであったが、何をどのような内容で調査するのかなど具体的なことは企画書の中に記載がなかったので、どういった調査を考えているかについて現時点での考えでも構わないので教えていただきたい。

また、マナーの問題が非常に大きいということで課題に挙げていたが、マナーの問題についてはトイレだけに限らず色々なマナーの問題がある。例えば、福岡では飲酒運転の問題や自転車の運転のマナーの悪さなどに取り組んでいく中で、この問題については普及啓発だけでなく実効性のあるものにしていく必要があるという流れにもなっている。管理の部分にも踏み込んでいくことが必要であれば、管理のしくみを作っていくこともあると思う。今、トイレを設置する、改修するという部分に関しては、一緒に考えていると思うが、管理していく、あるいはマナーというものの自体を守ってもらうために実効性のあるものにしていくという取り組みに関しては今回の提案の中にないので、そういったことについても考えているのか、そこまではないということなのかについて教えていただきたい。

【「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員会】

トイレの調査については、3年前にバリアフリー推進協議会からの依頼で、長崎市内51ヶ所のトイレについて調査を行った。観光地やまちなか地域のトイレが対象で、アプローチやスロープの高さ、トイレのドアの幅、トイレの中の手すりの幅、洗面所の高さなどをメンバーで手分けして行った。その調査から3年が経過しており、新しくなったトイレもあるので、今回はまちなか事業推進室と一緒にそれがどう変わったかなどについて、調査したいと考えている。

マナーの問題については、一緒に考える、視点を少し変える、みんなで考えようというようなことをしていきたいと思っている。そのひとつの手段としてマナー教室やトイレ検定をしていこ

うと思っている。だからといって、全部をトイレに特化しようとは思っていない。それは、もちろん「まちづくり」だからです。

【委員】

3年前に実施したトイレ調査はバリアフリーの視点での調査になると思うが、今回もそういった形になった場合、もう少し項目を追加してもいいのではないかと思うがどうか。

【「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員会】

バリアフリーというのはすべての人に通じていることなので、バリアフリーであれば普通の人には使えないということではなく、もっと使いやすい。ただ、それにプラスアルファされた私たちが策定した「基本のき」が入っているトイレもあるので、そういうプラスアルファを増やししながら、調査をしていきたいと思っている。

～ 質疑終了 ～

2 委員長講評

今日は、1次審査会ですので、2次審査に進むこととなれば、今後は行政と事業調整を行ったうえでプレゼンテーションを行っていただくことになるので、その際はよろしくお願いします。

3点、コメントしておきたいと思う。

まず、1点目として、それぞれ非常に重要なテーマを扱っていただいていると思う。アスレティックトレーナー長崎県協議会については子どもがスポーツをしていく中で身体的・精神的な発育をどう支えていくかということ。「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員会については、トイレは観光都市長崎にとっては非常に重要なことだと思う。私自身が長崎市内を案内したときに驚いたこととして、県外から来られた女性を案内したときにある飲食店でここではトイレしたくない、お願いだから別のところがいいと言われたことがあった。お客様をお迎えする「おもてなし」としても、トイレは非常に重要だと思うので、ぜひ頑張ってくださいと思う。2事業とも、こういった地域の課題に目を向けられているということで、非常に大事なことだと思う。

2点目については、審査委員としての視点から話をすると、行政と今後協議を進めていくのであれば、原因の特定にぜひ注力していただきたいということ。アスレティックトレーナー長崎県協議会の事業であれば、なぜこういったことが起きているのか、さきほども少し出たが、部活動の先生の技術というか、少し目が行き届かないからなのか、そういうところを明らかにしたうえで臨んでほしいと思う。

私たち審査委員は、この団体がどんな理想像を描いていて、現状がどうであって、どんな問題があって、そこに対して適切な対応をするために民間だけではできないので行政と組んでいるという視点で見るので、ぜひそういったことを考えていただきたいと思う。

また、「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員会についても、公共トイレが2年で汚くなっているということであったが、それがなぜ汚れてしまうのかということ、広く市民全体のマナーの問題なのか、それとも観光客の問題なのか、そういうところがある程度見えてくると、もっと明確な対応方法が見えてくるのではないかと思う。もちろん、それは分からない部分もあるかとは思いますが、原因の特定などを一生懸命やっていただくといいのではないかと思う。

3点目が、今回の提案型協働事業、もしくはこの提案型協働事業ではないときも行政と一緒にやるときはそうだが、問題を解決するにあたっての方向性を定期的に話をするなどして、ぜひ目的を共有していただきたいということ。当然、行政と民間の団体というのは目的も動き方も全然違うが、やはりその目的のところを共有されていなければ、非常に難しいことになってくるので、そのところはクリアしていただきたい。長崎市だけでなく、他の協働事業でも、行政と団体とで言っていることが全然違う、もしくはそもそもそんな話をしたことがないということがよくある。そういうことがないように、擦り合わせなどをしっかりとやっていただきたいと思う。

以上、3点、話をさせていただいたが、先ほども言ったとおり2つとも非常に重要なテーマを扱っているので、原因の特定をもう少し明確な形でやっていただいて、行政と擦り合わせていくといいのではないかと思う。

以上で、委員長コメントとしたい。